


ふりがな 氏名	よしなか ななこ 好中 奈々子	都道府県	神奈川県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應ユネスコクラブ代表 ・渋谷ユネスコクラブ会員 			
私のESD活動	世界遺産を題材に歴史・文化、更には環境・防災・教育まで過去から未来への繋がりを学ぶ			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は慶應義塾大学ユネスコクラブに所属し、スタディツアーを通して世界遺産を訪ねることを中心に活動しています。その中で「様々な形で世界遺産に携わる方々と出会い、お話を聞くこと」ということを特に大事にしてきました。このスタディツアーでの交流を始める前、世界遺産を学ぶことは「歴史や文化、宗教など過去を学ぶことがメインだ」と考えていました。しかし例えば世界遺産運動に携わってこられた方のお話から遺産と人々がどのようにとも歩んできたかを考えたり、遺産の地理調査をしている人からその遺産のまわりの環境変化や震災の影響などを聞いて、環境問題や防災についても考えるようになり、世界遺産の学びは決して過去のものではなく、過去と未来をつなぐ学びであり、様々な分野の人間を結びつける、まさしくESDの考え方にふさわしい学びだと今では思うようになりました。スタディツアーは毎年日本、世界と様々なところを訪れます。毎年継続している活動としては、鎌倉の世界遺産登録についての勉強です。鎌倉の地域の方々にご協力いただいて、世界遺産になるまでの過程を見させていただきながら、世界遺産の意義や地域の取り組みの在り方について研究させていただいています。

今はスタディツアーを通して学ばせていただくことが多く、自分たちで学んだことを社会へ発信するということが今後の課題と言えますが、私たちが訪れることで地元の方々同士で新しく繋がるということも多々あります。これが成果と言ってよいかわかりませんが、私たちがユネスコを通して様々な人々を結ぶという役割を果たしているのかなと考えています。

○「Twitter アカウント」 @keio_unescoclub

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思えますか？

今後もスタディツアーがメインの活動になりますが、その中で慶應ユネスコが自分たちが学ばせていただきつつも地域を結ぶコーディネーター的な役割、また地方と都市を結ぶようなきっかけづくりになるような存在になりたいと考えています。例えば、現在長野ユネスコ協会とのコラボ企画などを企画しています。

また私は将来、ESDの普及に取り組みたいと思っています。その方法について、最も効果的な方法を現在大学で考えていますが、現在考えている方法としてはメディアでの普及（現在ユネスコスクールでのESD普及は定着しつつあると考えるが、ユネスコ以外の一般の方々への普及はいまいちである）や、教材の開発です。また日本でのESD普及の取り組みを例に、大学で学んだ地域の特性などの知識を活かしてその土地の人々の考え方にあった形で、国外のESD普及にも貢献したいと考えています。